

## 後記

あっという間に過ぎた3年間の事業であった。が、この間にそれまで本学に存在していなかった機能的施策が事業の3本柱を中心に複数動くようになった。これらは実はこれまで潜在化していたものを見えるようにしたり、明確に制度化、体系化したものがほとんどである。だが、それらが種々の技術や仕組みによって可視化されたことで教育改革として、あるいは学生の学修を促進していくうえで、有効な指針ができたり、あらたな学修動機づけを喚起することができるようになった。だから、決して破壊的な改革をすることなく、それでいて改革と呼ぶに足るスマートな変革をもたらしたのが本事業であったといえる。その効果のほどはこれから先にあらわになってくるものであるし、さらにこれらの施策や方法が本学を越えて受容され、あるいは協働化するかたちで波及していくことになれば、本事業が国家の事業として採択され実施された意義もより明確になる、それだけに本事業の真の成果のほどは今後の継承と発展に託されているところが大きい。だから、事業が完了した今も一層のこと身が引き締まる思い、でいる。

本報告書文責 半田智久